



八尾春雄 議員

### 第二浄化センターの 汚泥処理

**問** 県は第二浄化センターで発生した汚泥をこの地で焼却処分したいとの意向とのことだが、事実か。この施設設置にあたり町は県と「焼却処分は行わない」と協定しているのではないか。

**平岡町長** 年一回、関係者の協議が行われており、地元意向を踏まえて、十分協議を行っていききたい。地元を飛び越えて町が勝手に判断することはあり得ない。

### 公園管理事務所の施設利用

**問** 施設管理サービス公社が、本年3月末に解散することに伴い、これまで地域の方が利用されていた公園管理事務所から閉め出すことは取りやめてもらいたい。

**理事者** 各地域に自治会集会所や体育館が整備され、状況に変化があるが、22年度西谷公園管理棟は4,4

34名が利用されていることもあり、周知期間の確保のため本年9月末まで使用できるようにしている。

### 中学校給食の実施について

**問** 今般、子どもの医療費無料化を中学校卒業までに拡大したのは、義務教育中の子育て支援策である。請願が全会一致で採択された中学校給食も同じ考え方に立って決断すべきである。中学校給食実施に反対を表明している方に相談をかけるのではなく、中学校給食実施に賛成する方の協力を仰ぐ必要がある。

**理事者** 中学校給食実施に向け、学校給食懇話会、食生活・食育を考える会議の二つを立ち上げ議論していただくことにした。

### ○その他の事項

- ・馬見北5丁目地区計画
- ・水道事業の見直し
- ・消防力の強化



坂口友良 議員

### 借金総額216億の 返済計画は

**問** 国レベルでは総額1,000兆とか言われ、国税収入46兆1,000億、借金を44兆2,000億して、返済に21兆9,000億充てているなど完全な自転車操業である。我が町も自転車操業ではないのか。ギリシャのようにデフォルトになれば国からくる金は半減する。その気持ちで返済計画を立てているのか。

**平岡町長** 地方債は一時に多額の費用を必要とする事業で、後年度の住民にも利用者負担をしていただき、経費の平準化を図るものである。公債費の削減については、新規事業の抑制、繰上償還、低利な借入先、世代間負担を考慮し、取り組んでいる。

### 子育て世代の支援への 政策転換をどのように考えるか

**問** ついに日本の人口減が始まった。平日図書館に行くがなるほど高齢化になっているのがよくわかる。

人口減は活力減、ひいてはコミュニティが維持できなくなる。既成の事業をぶっ壊して再構築する気構えで、子育て世代の支援に予算をまわす必要がある。支援策はどうか。

**平岡町長** 本町は県内で2番目に若い町だが、相応の高齢化が進展している。支援策として医療費の助成対象を中学校卒業まで引き上げたり、子育て支援として、一時預かり事業を実施する。保育料は年齢別となっており、他市町村よりも安価である。

### 中学校給食は子育て世代 支援策の一環として取り組み

**問** 給食というと、学校教育の一環とか食育とかでくる議論がよく出てくるが、今の時代、主婦も働くことが求められ、中学校給食はズバリ、子育て世代支援策の一環で取り組む時代にきたのではないのか。

**平岡町長** 「食生活・食育を考える会議」と「中学校給食懇話会」において、中学校給食実現に向けて検討を進めていただいている。今後、先進地の状況を見ていただき、広陵町の特色を持った方式などについて、しっかりと議論をいただけるものと考えている。